

不合格にならない公立高校入試

知られたくないライバルには、
決して教えないで下さい！

石井進学塾グループ

代表 石井 宏明

目次

1. はじめに	2
2. 24分間の天国と地獄	3
3. 不合格者の共通点	6
4. 公立高校不合格にならないための合格必勝法とは	15
5. 三重県公立高校入試問題の特徴と対策	27
6. 終わりに	28

1. はじめに

中3になって入塾する生徒を見て、いつも感じることがあります。

それは、「もう少し早ければ、志望高校に楽に入れたのに。」ということです。

今まで、25年間で1000人以上指導してきた経験からいうと、「合格する子には、合格するなりの、不合格になる子にはそれなりの理由がある」のです。

今回のこのレポートを参考にして、ぜひあなたのお子さんの高校入試にお役立て下さい。

このレポートは、公立高校を受験するお子さんの保護者向けに作成されたものです。

もし、受験生の方がいらしたら、ご本人にも見せてあげて下さい。

なお、あなたの周りで、公立高校を受験希望のお子さんをお持ちの保護者の方がいらっしゃいましたら、どうぞこの内容を教えてあげて下さい。

もちろん、ライバルでない方ですが…。

2. 24分間の天国と地獄

「ウォー。」

「やったー。」

3月16日午前9時30分。歓声が上がった。そして、24分間のドラマは始まった。

「合格発表日」

この緊張は、何十回経験しても変わらない。走らせながら、今年受験した生徒のことを思い出した。

「先生、メッチャ緊張するわ。」

余裕であるはずの、Sも試験前は緊張していた。また、ギリギリだった2人。

当日は「できた」と言っていたが、本当に大丈夫だったのだろうか。

毎年、後悔する。

「今年は絶対に、全員余裕で志望校に合格させる。」と受験生を受け持った時は、強く決意するが、子供にはこの「想い」は伝わらない。

「すぐ投げ出す」「宿題忘れる」「難しい問題を飛ばす」「居眠りする」

その時は、それで済むが、その後には怖い現実が待っている。

本当に、これから起こるドラマを見るたびに強く想う。

「絶対に通さなきゃ！本人の行きたい学校に。」と・・・。

そして、発表会場。思いのほか、早く着いた。時間は、「9時10分」。

しばらく、車の中でじっとしていたが、いてもたってもいられず、外に出た。外は、寒く、車の温度計掲示板は、「5℃」を示していた。

発表場所には人影がまばら・・・。近くには、父親ときている女の子がいた。2人とも落ち着かない様子。2人とも「ボソボソ」と話す。何ともいえない緊張感。時間は、中々進まない。だが、少しずつ人が増えてきた。

「よう。〇〇。」と、同じ学校であろう男の子同士が、声を掛け合う場面も見られ始めた。そして、だんだんと親子連れが校門からゾロゾロと入ってきた。

そして、5分前。にわかに発表掲示板前がざわつき始め、さらに人が集まりだした。番号を掲示する職員が現れたのだ。

さらに、結果報告を掲示する担当の先生が腕時計を確認する。何度も時計を見る。人だかりが急に掲示板の周りに集まり始めた。「9時30分」。時計が9時30分をさすと同時に、受験番号が書かれた掲示板が、1つ出された。

「ウオー」「やったー」「キヤー」

悲鳴にも似た歓声が上がった。掲示板前では、歓声がさらに上がった。

私の目の前では、合格した者がガッツポーズをして、拳をアッパーのように突き上げた。

泣き出す女の子。付き添いの母親がもらい泣きし、ハンカチを取り出し、目じりを拭く。友達同士で、肩を組み合う者。(多分)塾の先生がその4人のグループと肩を組んだまま写真を撮る。

さらに、何人かは、自分の子供の合格番号を携帯のカメラを録っていた。

その横では、携帯を取り出し、急いで電話する子。

「お母さん。今、いい?」「あった! 番号あった!」と報告。

そして、遠くから、疾風のように掲示板までやってきて、「オッシー! やった!」と大きな雄叫びをあげ、ガッツポーズをする者。

また、「あった!」「やった~!」と叫び、「お前は?」「あった!」「ウオー」と抱き合う男の子たち。

2人で万歳して、携帯電話が吹っ飛ぶ。この時が受験生にとって至福の時……。

そして、もう一方では……。不安そうな親子連れ。子供は不安でたまらない……。

「お母さん、怖くて見られない。見て。」

「えっと、番号は……。231の次は233」

「えっ？233……233」

「……。」

「ないよ。ないよ……。」

「……」

そう言って、子供は、目を伏せた。

そして、絶望にも似た顔となる。何とも言えない雰囲気の流れ、彼女の目には涙が溢れた。気落ちしたわが子を抱えるように、母親は帰って行った。

また、携帯電話に向かって、「なかった、お母さん。ごめんね。お父さんに謝っておいて。『ごめんっ』て。」 そう言って、携帯をきる少女。

9時53分になって、ほとんどの人が帰っていった時、1人でトボトボと歩いてきて、受験番号を見る男の子。

サッと、顔色が変わり、元氣なく帰る……。

私は、「喜びの姿」と「悲しみの姿」の両方を見て、複雑な気持ちになりながら、目の前で起こったことを噛み締めていた。その時、時計は、午前9時54分。

私は「24分間のドラマ」の会場を後にした。

学生となったからには、受験は必ず訪れます。

そして、その時は、「合格」「不合格」という、どちらかの結果が待っているのです。

想像してみてください。この「合格した人」と「不合格になった人」の後を……。

努力しても、報われない時もあるかも知れない。

しかし、合格した人は間違いなく、それ相応の努力をしているものなのです。

受験がある限り、このドラマは続きます。

ぜひ、「受験生」や、「受験する予定」のお子さんには、この事実を話してあげてください。そして、こう伝えてあげてください。

「受験に明日はない！ 全ては今日！ 今やるべきことは、今やる！」

このレポートの最初に、この話を持ってきたのには、理由があります。

それは、受験に限らず、「本人が、自覚しない限り、成績は上がらない」からです。

まずは、受験の後に訪れるドラマをしっかりと頭に描いて、これからの勉強に取り組んで下さい。

3. 不合格になる人の共通点とは？

1000人以上の生徒を指導した経験からまとめますと、やはり、不合格になる人は、不合格になるなりの理由があります。受験する人は、当たり前ですが、それをしっかりと把握して、対策を打つ必要があります。

不合格になる理由は、以下の4つになります。

- ① 受験勉強のスタートが遅い
- ② 自分の実力と志望校との差が開き過ぎている
- ③ 最後の最後で油断した、逆に緊張しすぎた
- ④ 勉強の方法が間違っていた

それでは、1つ1つ解説していきましょう。

① 受験勉強のスタートが遅い

これは、次の②とも大きく関わってきますが、受験勉強のスタート時期が遅いと、志望校を不合格になる人が多いです。毎年毎年、中3の9月になってから塾に入ってくる人がいますが、その時に強く感じるのが「もう少し早ければ」という思いです。

確かに、中3の9月になってからでも、逆転合格出来る人もいますが、それには、ある一定の条件をクリアした人でないと合格出来ません。

しかもほとんどの生徒がその条件をクリア出来ないのです。

その条件を挙げますと、

1. 理解力があること
2. 一定期間多くの問題をこなせ、集中力と体力があること
3. 志望校に対して強い執着力があること

これらの条件を満たす生徒は、本当に限られた人にしかいませんでした。

ですから、入試直前となってお子さんが無理をしないためには、やはり受験勉強のスタートは早い方が良いのです。

というのは、志望校によって身に付けるべき問題量がほぼ決まっているからです。

簡単に言うと、夏休みの宿題と同じで、やるべき課題が決まっているので、それを毎日少しずつマスターしていくのか？直前になって、それをまとめてやってしまうのか？という違いです。

当然無理なく続けるには、毎日少しずつ課題をクリアしていく方がいいのです。

② 自分の実力と志望校との差が開き過ぎている

毎年毎年、受験指導していると、中には「本当に無茶な要望」をしってくる人がいます。

それは、「自分の実力と志望校の差が開き過ぎている」ことです。

そして大抵は、その差を埋めるのに大変な時間と、労力がかかるということが理解できていない保護者の方と本人です。

つまり、「得点するためにどれだけやらないといけないのか？」

そして、そのために「何を」「どれだけ」「いつまでに」を知らないからです。

「中間テスト・期末テスト」といった定期テストで説明してみましよう。

私は、「勉強には時間が必要」ということを伝えるために、こういった例え話をします。

「〇〇くん、君は、学校に登校するまでどれ位時間がかかるの？」

「15分くらい」

「あっそう。それじゃ何時に朝出ていくの？」

「8時15分に出ていくよ。」

「それじゃあね、もし君が朝、目が覚めた時、8時15分だったらどうする？」

「慌てて走っていく。」

「そうだよ。慌てるよね。それじゃ、なんで慌てるの？」

「学校に遅刻するから。」

「それは自分でよくわかっているんだね。」

「うん。だって学校まで15分かかるとわかっているから。」

「そうなんだね。自分で学校まで15分かかるとわかっているから、慌てるんだね。」

「うん。」

「それはね、勉強も同じなんだよ。実は定期テストが近づいているのに勉強しない子のほとんどは、『自分が取りたい点数を取るためには、どれだけの時間がかかるか』を知らないからなんだよ。まずは、自分でどれくらい勉強しないと得点できないかを知らないとダメだよ。」という話をするのです。

「わかりますか？」

学校まで登校するのに、15分かかることが分かれば、登校時間15分前になると慌てるように、勉強も「目標得点を取るためにどれくらいかかるか？」を知ることが、「試験勉強の第一歩」なのです。

このことを知るのに、さらにわかりやすいように、実際の科目でやってみましょう。

例えば、子供が「学校のテストで90点を取りたい」という目標を掲げたとします。

もちろん、その子の今の実力によって勉強すべき量は大きく変わってきますから、普通の学力で普通の能力の方を対象と考えますね。

通常の場合、数学のテストは、『学校指定のワーク』から出題されることが多いので、この『学校指定のワークを終わらせる』ということ課題にします。

ページ数でいうと、「テスト範囲が20ページ」とします。すると、子供は「20ページやれば、90点以上は取れる」と勘違いします。(笑)

しかし、実際の場合は問題を一度やっただけでマスターする子はほとんどいません。勉強は、『課題を終わらせることではなく、課題をどれだけ身に付けるか』が大切なのです。

すると、「最低でも3回はやる！」となってきます。

もちろんこれは人によって差があるので、2回で出来る子もいれば、5回やっても出来ない子もいます。

それもやってみて把握しないと出来ませんが、ここでは「3回でマスター出来る」と仮定しておきましょう。

すると、全部で「やるべきページ数」は $20\text{ページ} \times 3\text{回} = 60\text{ページ}$ となります。

そこで、「この60ページを何時間でこなすか」という計算をすべきなのです。

すると、大抵の子はワークの内容にもよりますが、「1時間で3~4ページ」しか進みません。もし、3ページ進むとすると、 $60\text{ページ} \div 3\text{ページ} / \text{時間} = 20\text{時間}$ かかるという計算になります。

いかがですか？「20時間」というと「1日4時間勉強しても、5日間かかる」ということになります。実は、ほとんどの子も保護者の方も、これだけ時間がかかるということを知らないのです。

もちろん、回数が少なくてもマスターすれば、それに越したことはありませんが、なかなか1度でマスターする子はいないので、最低でも2回以上しないとイケないのです。もちろん、1時間でこなせるページの量が多ければ、短い時間できますし、1時間でこなせるページの量が少なければ、さらに時間がかかってしまうのです。

でも、こうやって考えるだけで具体的に、必要な学習時間が見えてくるのです。

仮に今回のように1科目に20時間かかるとすると、5科目で「 20×5 科目 = 100時間」かかるということがわかります。

そうすると、今回の場合は、次のテストのために・・・「100時間かけないとイケない」ということが理解できます。

こうやって、子供が受験勉強する時には、『「何を」「どこまで」「どれくらい」やらないとイケないか？』をわからせていく必要があるのです。

これがわかって、今の自分より偏差値の高い学校にチャレンジをするのであれば、いいのですが、大抵はそれもわからないでチャレンジするので、不合格になってしまうのです。

③ 最後の最後で油断した、逆に緊張しすぎた

公立高校に関しては、実際に倍率は、1.5倍以下のところがほとんどなので、一部の進学校を除き、不合格になることはめったにありません。

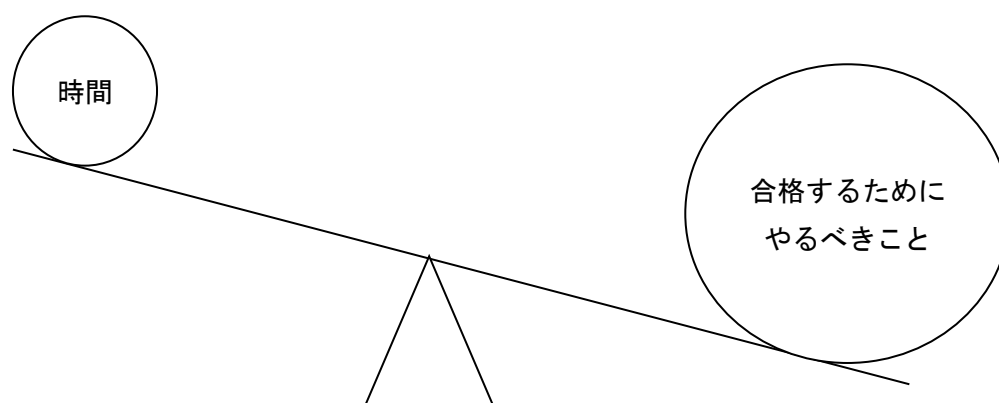
ですが、中には、先生の太鼓判があっても不合格になる場合があります。

それは、「過去3回の実力テストの傾向が下がり気味である場合」と、「本番で極度に緊張する場合」です。

④ 勉強の方法が間違っていた

塾に通っている人で、よく見受けられるのが、間違っただ学習をしている人です。

というのは、自分の行くべき学校に対して、必要でない勉強をしていることです。受験勉強でやっかいなことは、「1、2年生の勉強+3年生の勉強」をしないとイケないので、当然必要時間がかかります。イメージでいうとこんな感じです。



明らかに勉強時間が足りなくなります。

公立高校に合格するには、「志望校に合わせて、やるべき課題を削る」ということも必要になってきます。また、勉強する科目の順序も大切です。というのは、科目の特性によって、勉強すれば、「すぐに結果の出る科目」と「勉強しても中々結果の出ない科目」があるからです。

ですから、集団塾の一辺倒のカリキュラムではなく、それぞれの子どもに合わせて、指導してあげるのがベストなのです。

それでは、まず何からスタートすべきなのか、その「科目の特性」からお話しましょう。特に注意すべきなのは、「横型学習科目」です。入試においても「鍵」となる科目で、「英語」「数学」です。

そのことについて、詳しくお話しすると、科目は大きく分けて2つのタイプがあります。

それは、

【縦型学習の科目】 と 【横型学習の科目】

の2種類です。

それでは、それぞれの科目との特徴について簡単に説明しますと…。

【縦型学習科目】

縦型学習科目とは、前学年の内容との関連が薄い科目です。

つまり、「**前学年の内容が出来なくてもその学年だけ勉強すれば、点数が取れる**」と

いうものです。(例)中学で習う社会。中1で「地理」を習って、中2で「歴史」を習う。

これだと、「地理」の成績が悪くても、中2になって、「歴史」が好きならば、また挽回出来るチャンスはあります。というのは、下記の図のように習う内容、その科目が縦型

で、**中1の内容が出来なくても、中2、中3の内容はほぼ独立しているので、中2からでも社会が出来るようになっているからです。**

実際に私も「地理」が苦手で、80点以上をとったことがありませんでしたが、「歴史」は90点以上で100点近くの成績でした。(学校によっては、【地理】【歴史】並行型もあるでしょうが、考え方は同じです。)

地理	歴史	公民
中1	中2	中3

一方、今度は、塾などでよく受講科目とされる【数学】【英語】について、考えてみたいと思います。

【横型学習科目】

横型学習科目とは、「**前学年の内容がわかった上で、次の内容が理解できる科目のこと**」です。特にこの科目が非常にやっかいで、受験生が苦勞するのも、このためだったのです。

それでは、この科目の問題点をまとめてみますと、

- ・ **前学年のことが理解しているという前提で授業が進められている。**
- ・ **前の学年が、わからないと、今のところがわからない。**
- ・ **わからなくなると、雪だるま式にわからなくなる**
- ・ **他人と差が開きやすい。**

というものです。

あなたは、不思議に思ったことはありませんか？

「**なぜ、塾には、算数・数学・英語という科目ばかりが多いのだろうか？**」と……。

実は、これらの理由によるのです。まずは、次の図を見て下さい。

分野	式と文字	方程式	関数・グラフ	図形
中1	文字と式	一次方程式	比例・反比例	平面図形・空間図形
中2	式の計算・利用	連立方程式	一次関数	平行線と角 三角形と合同
中3	多項目の計算 因数分解	二次方程式	二次関数	相似・平行線と比

これは、中学で学ぶ、【数学】を分野別に書いたものですが、先程の【社会】と比べてみて下さい。

先程の【社会】は縦型のため、他の分野との係わり合いが少ないのに対して、【数学】については、横型となっているため「**前学年が出来ていないと、今年の内容も理解できない。**」ということになるのです。

例えば、方程式の分野で見れば、中1の【一次方程式】が出来ない生徒は、中2の【連立方程式】は、中1の【一次方程式】を土台にしているので、全く出来なくなります。つまり、

学年	理解度	理解度	得点
中1	■	テストで80点だった。 理解度が80%	80点
中2	■	しかし、中2では、 中1の80% × 80% = 64%	64点
中3	■	それが、中3では、 中2の64% × 80% = 51%	51点

のように、学年が上がれば上がるほど、得点が取れなくなってくるのです。このため、塾でも「算数」「数学」「英語」といった科目を重要視しているのです。ですから、学んだその時期、学んだことをマスターしておかないと、

とんでもないことになってしまう のです。

特に数学は、算数から数学と変わり、中1の内容だけでなく、小学校で学んだことも使わないと解けない問題がたくさんあります。

指導現場では、

- ・ 中学生でも、小数点の掛け算の小数点の位置がわからない。
- ・ 小5で学ぶ割合がわからないため、方程式の文章題が解けない。
- ・ 小6で習う比がわからないため、理科の化合の計算問題などが全く解けない。

などの深刻な問題が起こっています。

それでは、この冊子をご覧のあなたは、いつから、お子さんの将来のために手をうつてあげますか？ (注)受験で失敗するお子さんの90%の保護者の方が、「スタートが遅かった。」と語っています。

また、あなたは、お子さんの学習のために具体的に何をされますか？

本当にお子さんの将来のためを考えていらっしゃるなら、**行動は今すぐ！**起こされることをお勧めします。

お子様の将来のために、あなたがしてあげられることは、ここにあります。

それでは次に、実際に「具体的勉強法」と、「不合格にならない勉強法」について考えていきましょう。

4-1. 公立高校不合格にならないための合格必勝法とは

それでは、公立高校不合格にならないための勉強についてお話したいと思います。

その前にまずは、「私立高校の入試問題」と「公立高校の入試問題」の違いについて考えていきましょう。そこから、やるべきことが見えてきます。

「私立高校」や「中学入試」と「公立高校」の入試問題の違いには大きな特徴があります。その**入試問題の違い・・・「受験する生徒の学力層」**について考えてみたいと思います。

<私立高校・中学入試>

例えば、三重県にある「**偏差値60**」の私立高校があったとします。当然、その学校を志望する受験生達は、「**偏差値が60前後の学力を持った生徒**」が集まってきます。もちろん、もっと偏差値の高い生徒も受験しますし、もっと偏差値の低い生徒も受験しますが、平均すると偏差値が60前後です。出題する側は、それに合わせたレベルの入試問題を出題していきます。公立高校で出題される初歩問題は、私立高校ではほとんど出題されず、標準以上の問題となっています。

＜偏差値が60の私立高校の場合、それに近いレベルの問題が出題される＞

偏差値	受験者層	問題のレベル	
70		難問	このレベルの問題が出題される。
		やや難問	
63		複合応用問題	
		応用問題	
60		複合標準問題	
55			
53		標準問題	
50		やや簡単な標準問題	
40		基本問題	
30		超初歩問題	

私立中学・私立高校の受験者の学力層は、限られているため、受験者層の学力に合わせた入試問題を作成しやすい。

＜注意：問題の分類については、表の作成上一時的に分類しています＞

一方、公立高校の場合は、受験者層の偏差値のバラつきが、「28～70」という開きがあるのにも関わらず、**受験者の全員が同じ問題を解く**こととなります。

ここがポイントです。

大切なので、もう一度繰り返しますが、**三重県の受験者の全員が同じ問題を解く。**

つまり、偏差値70の生徒にも、偏差値28の生徒にも、対応した問題を作らなければならないようになります。

すると当然ですが、問題に関しては、レベルは次のようになります。

＜公立高校の場合、偏差値「30～65」の様々なレベルの問題が出題される＞

偏差値	受験者層	問題のレベル	
70		難問	このレベルの問題が出題される。
65		やや難問	
60		応用問題	
55		複合標準問題	
50		やや簡単な標準問題	
45			
40		基本問題	
35			
30		超初歩問題	

公立校高校の場合、全てのレベルの問題を出題しないといけないので、問題レベルはバラバラになっている。

具体的な問題の例でいきますと、

超初歩の問題・・・ $3 \times (-7)$ 平成26年 三重県出題 大問題1の1

というのがあります。

これは、「偏差値30には、最低でもとって欲しい問題」で、偏差値の30の人でも解けるように作られた問題です。(中学1年生の1学期に授業で習います。)

しかし、偏差値70の人にとってはこの問題レベルでは、考えるほどの問題にすらなりません。まず、99.9999%間違えることはありませんね。

一方、以下のような問題も出題されています。

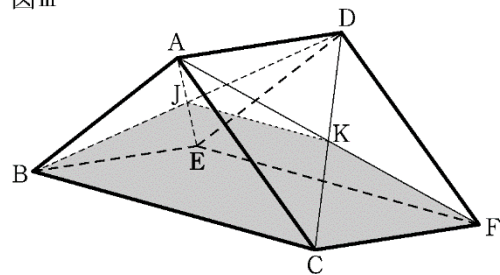
少し見えにくいので、内容を書きますと、

図Ⅲにおいて、Jは、DとBとを結んでできる線分DBと線分AEとの交点である。
 Kは、DとCとを結んでできる線分DCと線分AFとの交点である。
 JとKとを結ぶ。
 このとき、JK平行EFである。立体JK-BCFEの表面積を求めなさい。

<実物>

(3) 図Ⅲにおいて、Jは、DとBとを結んでできる線分DBと線分AEとの交点である。Kは、DとCとを結んでできる線分DCと線分AFとの交点である。JとKとを結ぶ。このとき、JK // BC, JK // EFである。立体JK-BCFEの表面積を求めなさい。

図Ⅲ



この問題などは、中3の後半に習う「三平方定理」を使い、偏差値60の生徒でもてこずります。

いかがですか？「中学受験」「私立高校」など受験者層が限られている場合と、「公立高校」といった幅広い層でやるべき勉強とは、おのずと違ってくるのです。

それでは、実際にどのように受験勉強をやっていけばいいのでしょうか？

今度は、そのことについてお話しますね。

4-2. 公立高校不合格にならないための合格必勝法とは(合格の教科書)

① 志望校の決定

最初にすべきなのは、およそでも結構ですので、「どのレベルの学校を目指すかははっきりさせる」ということです。

まずは、志望校をはっきりさせましょう。それによって勉強の方針も変わってきます。

② 「何を」「いつまでに」「どれだけ」するかを決める

次にやるべきことは、「何を」「いつまでに」「どれだけ」するのかを決めることです。

先ほど書きましたが、受験勉強で大切なことは大きく分けて2つあります。

1つは、「3年生の成績を保つ」ということと、もう1つは、「1、2年生の復習をしないといけない」ということです。

ですから闇雲にやっても成績は上がりません。

まずは、志望校が決まったら、その志望校に必要なレベルの問題集を「いつまでに」「どれだけ」やるかを決めて、取り組んで下さい。

1年間の大体の計画は次のようになります。

〈1〉「何を」するのか？

正直に言いますと、「どんな問題集をしようか」と考えた時、数学・英語については、書店でも受験勉強用に売られていますが、やはり、「塾用」の問題集の質と量には、とてもではないですがかないません。

これは、私が塾をやっているからではなく、塾を経営するようになって初めて知りました。できれば、「塾用の問題集」をご使用下さい。

〈2〉「いつまでに」するのか？

人によって、それぞれペースが異なりますので、必ずしも次のようにみんながいくわけではありません。受験はあくまで競争なので、少なくともライバルたちに勝ち抜くために、綿密な計画を立てて実行していく必要があります。

1年間で考えてみると、およその計画は次のようになります。

以下は、受験勉強を中3の4月からスタートした場合です。

・ 4月から7月夏休みまで（主要3科目 基礎確立期）

この時期は、主に「横型科目」である「数学」「英語」を中心に勉強します。特に横型科目を中心にするのは、「社会」「理科」といった縦型科目と違って成績をアップさせるのにかなり時間がかかるからです。この時期になんとか「英語」「数学」に光を生み出すことができれば、2学期からの成績アップにつなげることが出来ます。

・ 夏休み（苦手科目・苦手分野克服期）

夏休みはまず、基礎確立期で出来なかった分野や自分自身が苦手なところを克服します。この時期に潰してしまいます。

夏休みは「受験の天王山」と言われますが、一般的な夏期講習に参加して無駄に時間を過ごしてはいけません。というのは、受験勉強をしていくと当然各個人によって「得意分野」「苦手分野」が分かれてきますから、「得意分野」に時間をかけていては、成績は変わりません。なるべく自分自身の「苦手分野」や「出来ていない所」に集中して行うべきです。特に国語・数学・英語という科目は夏休みにしっかりと基礎をつけておかないと、後半大変なことになりますので注意して下さい。

・ 9月から12月（発展期）

この時期になると、偏差値の高い学校に行く子どもたちは、ほとんど勉強の時間数を増やし、成績アップを計ってきます。また、後半になればなるほど、勉強しても偏差値が上がらないということが起ってきます。

それは、マラソンと同じで自分自身がいくら一生懸命走っても、周りの人も同じように走ると差が開かないように、勉強もこの時期になると、ライバルたちも必死で勉強するようになり、得点は上がっても偏差値は上がりにくくなってきます。

・ 冬休み（総復習期）

冬休みは、1月に入るとほとんど入試対策に追われるので、その前に1通りチェックするのを終わっておきます。この時期に出来ていない分野があれば、この冬休みの時

期に集中して潰しておきましょう。また、冬休みの総点検で弱いところが見つければ、そこも再度問題量をこなして潰しておきましょう。

・ 1月（入試対策期）

1月に入ると、すべり止めの私立高校の対策が始まります。私立高校も学校によって、独特の問題がありますので、過去問を解いて、その対策を十分にしておきましょう。また、すべり止めの私立高校を受けない場合、1通りの総チェックが終わっている人は、公立高校の過去問を解いて下さい。そして、次のような方法で、公立高校の対策を打って下さい。

・ 受験前対策

私が、以前に公立高校の先生にこんな質問をしたことがあります。受験勉強に対する本質的なことと思うのですが・・・「受験生が公立高校に合格するには、どのような勉強をすればいいですか？」「そうですね。公立高校ですから、教科書を逸脱した問題を出すことはありません。それほど難しい問題は出題されないので、(得点を)落とさない勉強して下さい。」本当にそうですね。公立高校に限るわけではないのですが、公立高校の場合は、特にその傾向が強いといえます。

具体的にいうと、例えば偏差値50の生徒だと、

「自分のレベル以下の問題を解答するだけで合格する」というのがわかってきます。大切なので、もう一度言いますね。

「自分のレベル以下の問題を解答するだけで合格する」のです。

それは、「できる問題をしっかりと、得点に結び付けていく」ということなのです。

これを図に表しますと、次のようになります。

＜自分の志望校の合格レベルまで問題を解けば合格する＞		
偏差値	あなたの偏差値	問題のレベル
70		難問
65		やや難問
60		応用問題
55		複合標準問題
50		やや簡単な標準問題
45		
40		基本問題
35		
30		超初歩本題

このレベルまでの問題を解けば合格する

入試問題を見てみると、最初から解く必要のない問題がある。
過去問を分析し、自分が合格するのに必要な問題数を分析することが大事。

つまり、公立高校の場合は、「**自分の受験校の偏差値に合わせて、自分の偏差値より、レベル以下の問題を解けばよい。**」ということになります。裏を返せば、「**最初から解かなくてもよい問題が存在する**」ということです。ここがポイントです。

入試直前でも、受験生は、「**わからない問題**」を解こうと一生懸命になっています。

しかし、大切なことは、「**わからない問題をやるのではなく、わかっているが出来ていない問題を解く。**」ということをする必要があるのです。何度も言いますが、

「わからない問題をやるのではなく、わかっているが出来ていない問題を解く。」

例えば、高校入試の過去問を解いている時に、わからない問題で「中2の連立方程式がわからない。」と生徒がよく聞いてきます。通常だと、「そうか、どれどれ・・・。」と言って、教えてあげるのが普通ですよ。

でも、私はそれをすぐには教えません。というのは、その前に連立方程式の計算を何問かやらせてみて、確実にできた生徒だけにしか教えないのです。

生徒の言うとおりに、連立方程式の文章題を指導していたら、決して成績はすぐには上がらないからです。

連立方程式の計算なら、

連立方程式の計算をマスター >>> **すぐに得点**

しかし、連立方程式の文章題なら、

連立方程式の計算を理解

連立方程式の計算のマスター

さらに、

連立方程式の文章の理解

ようやく得点になる

という2段階になってしまうのです。もちろん、連立方程式の計算が出来ている生徒は、すぐに文章題をやらせれば、1段階ですみます。

【それでは、実際に入試問題では、具体的に入試直前で何をすればいいのか】

まず、やらないといけないことは、

「過去問の出題傾向の分析」

「間違ったところの原因をチェック」

1. 過去問を解く

過去問を解くには、大きく2つの理由があります。

1. 現在の実力で何点取れるかという実力把握のため

2. 出題される傾向を知る というものです。

まずは、1. 現在の実力で何点取れるかという実力把握のために、時間を計って解きましょう。

最初に解いて、今の力でどれだけ得点できるかをやってみます。

そして、次のようにその得点を表にしておきましょう。

	国語	数学	理科	社会	英語	合計
平成28年度	35	40	45	30	40	190
平成27年度	33	42	40	35	35	185
平成26年度	34	40	41	32	34	181

次に、2. 出題される傾向を知るために、もう一度問題をチェックしていきます。

大問は何問か？（1問にどれくらいの時間をかければいいのか）
どの分野から出題されているのか？（どの分野を中心に勉強すればいいのか）
どういう形式か？（記号か、記述式か。記述式なら何文字か）

例えば、三重県の入試問題で数学を見てみると・・・大問が5問、小問が25問程度。

分野は、計算、関数、証明、作図は100%出題されている。といった具合です。

（実際にはさらに詳しく分析していきます。）

次がそれに対する対策です。

2. 短期間で得点をアップする施策を打つ

そして、ここからが本番です。

まずは、良く出題されている分野から、以下の作業をやっていきます。

最初は間違い潰しです。それには、次のことをやっていきます。

間違っている中で、大きく2つに分けます。

1つ目は、わかっているが出来なかった問題、あるいは、忘れていた問題
2つ目は、わからないし出来ない問題

まず、最初にやるべきことは、「**わかっていたが出来なかった問題と、忘れていた問題を潰すこと**」です。

ここで、大抵の受験生が犯す間違いは、この「**わかっていたが出来なかった問題と、忘れていた問題を潰すこと**」を軽く考えて、「この時は、たまたまのミス。今度から気を付ける。」「ちょっと忘れていただけ・・・。」と軽く考えて潰さず、逆に「**わからない問題からやり直そうとする**」ことです。もちろん、わからない問題をやることも必要ですが、**最初にすべきことではありません**。最初にすべきは、「**わかっているが出来なかった問題を潰す**」ことから始めなければいけません。

入試では、

「わかっているでも解けない限り、1点にもならない。」

という現実があります。

ですから、まずは、「**得点できるところを最初にしっかりと固めるべき**」なのです。

実際に過去問でも、「×」を分析すると、大きく4つに分かれます。

- 1つ目は、わかるが、ミスした問題
- 2つ目は、わかるが、忘れていた問題
- 3つ目は、わからないが、教えればわかるようになる問題
- 4つ目は、わからないし、教えてもわかるようになるか疑問である問題

これを図に表すと・・・

得点ライン(このレベルが実際に得点できる)			
.	.	.	.
■	.	.	.
	■	.	.
■	■	■	.
わかるが ミスした	わかるが 忘れていた	わからないが 教えれば・・・	わからないし 教えても・・・

こんな感じです。

これを受験生は、少ない時間と少ない労力で得点するために、1つ目の「**わかるがミスした問題から潰すこと**」から順にやっていくことです。

次が「**わかるが、忘れていた問題を潰すこと**」です。しかも、これを以前に良く使っていた問題集でやるか、間違った時は、以前使っていた問題集や参考書で確認しながらやっていくかです。

すると、以前やっていたもので復習すると、授業でやっていた景色や情景が出てきて思い出しやすいのです。

本当に、このミスを潰すこと、そして、次の忘れていた問題を思い出しただけでも得点がアップするのです。

いいですか、今すぐできることは、

過去問で出来なかった問題で、よく出題されている分野から、
わかっていたが、ミスした問題と、忘れていた問題を潰す

です。しつこいようですが、1000人以上の指導経験から言わせてもらうと、「**以前に出来ていた問題をほとんどの生徒は忘れてしまっているから得点が下がる**」のです。

それぞれの定期テストや単元テストでは得点できていた問題なのです。

実際に私が受験生を指導していて残念に思うのは、「**中1のときに出来ていた問題が、中3になって解けなくなる**こと」からくるストレスなのです。

これは、受験生でなくても、地道な努力をしない生徒が、定期テストではいい点数だが、実力テストで得点できないのも同じ理由からなのです。

是非、この「**わかるが、出来なかった問題潰し**」

からやってみて下さい。これをするだけでも、5点～10点はアップしていきます。

1科目5点でも、5科目だと25点アップすることになります。

5. 三重県公立高校入試問題の特徴と対策

【英語】

リスニングと課題作文で30点。これだけで全体の6割を占めています。

よって、石井進学塾ではリスニングと課題作文の練習をしっかりと行っています

【国語】

比較的簡単。最後の課題作文が6点あるので、ここの練習に時間をかけています。

【数学】

簡単な問題と難しい問題が混在しています。受験校に応じて、問題集やプリントを変えながら、生徒のレベルに合った課題を行っています。

【理科】

大問が8題出ます。物理分野、化学分野、生物分野、地学分野から各2題ずつというのが多いです。記述式の問題も5～6題出ます。記述対策とその年に出題されそうな単元を重点的に学習させています。

【社会】

地理・歴史・公民の配分ですが、やや公民の出題量が少ないといった感じで、ほぼ均等に出ています。単元に偏りはなく全体的に出ている印象です。

1問1答形式の設問が7～8題あり、配点も2点なので、1問1答の練習には力を入れています。

また資料の読み取りの問題や、記述式も多いので、しっかり練習させています。

6. おわりに

いかがでしたか？

もし、このレポート内容が良いと思われたら、お知り合いの方に分けてあげて下さい。

やり方がわかっているにもかかわらず実践しないと成果は上がりません。合格するためには、正しい勉強法でしっかりやり切ることです。

石井進学塾では、合格するための最短ルートを提示し、それを確実に実行させて合格へと導きます。

また、高校選択などのアドバイスも、過去25年の実績からの確にアドバイス出来ると自負しておりますので、ご相談下さい。

以下の項目に当てはまる保護者様

- 子どもが高校に合格できるか不安
- 子どもの成績が上がらずに悩んでいる
- 家で全く勉強しない姿を見てイライラする
- 受験のことがよくわからないので、相談にのってくれる人がほしい
- どのように勉強させたらよいかわからない

まずは、無料受験相談をご予約下さい。

/// ご予約方法 ///

- ① 0598-26-8852に、電話して予約する
- ② 石井進学塾のラインから面談希望とメッセージする。追って、日時を打ち合わせさせていただきます。
- ③ HP のメールでのお問い合わせから体験希望のメールを送る